



「新型車両は広くて気持ちがいいです。ぜひ利用したいと思いました。」吉村キミ子さん（下野 写真中央）



「お披露目です。玉が割られ、いよいよ愛称発表です。」なののはな号に決定！



「へいちくはよく利用しています。とても快適な雰囲気で、運行が楽しみです。」大島テル子さん（大島来比）くん（神崎）。



「東鷹高校バスハンド部のファンファーレとかわいらしい駅員さんの会場で「出発進行」。」



「さあ、出発だ。たくさん関係者に見守られながら、記念すべき出発式の運転手さんに花束が手渡される。」

春の陽気を浴びて、菜の花に見守られながらさっそうと走る新型車両。デビューしたこの時期「なののはな号」の愛称にピッタリの沿線風景が広がりました。



へいちく なののはな号

黄・水色・緑・青・沿線に春の到来を告げる色鮮やかな新型列車

新型車両400形
期待のニューフェイス

公募で新型車両の愛称
「なののはな号」に決定

新型車両誕生祭で
「なののはな号」お披露目

平成21年度までに
全16車両を新型化予定

4月8日から運行を開始するへいちく新型車両の「誕生祭」が3月25日に金田駅構内で開かれ、新型車両を目当てに訪れたおよそ800人の鉄道ファンや親子連れでにぎわいました。新車両は黄色をベースに、水色・緑色、青色の3本線が車体を包むように描かれています。「黄色は菜の花」「水色は川・緑色はやまやまの木々」「青色は空」と、豊かな自然をイメージ。車両正面にはマスコットキャラクターの「ちくまるくん」が元氣

へいちく開業の平成元年（1989年）から地域の足として活躍した車両は、その親とまれてきました。軽量化と低コストがウリの車両で、耐用年数はおよそ10年から15年。現在の車両は、職員による毎日の丁寧な点検・整備で維持していますが、老朽化が目立ちはじめ、修繕費がかさみ、車両の刷新が必要な時期にさしかかっていました。

今回導入した新型車両「なののはな号」は、エンジンがパワーアップし、燃費の向上と排ガス浄化に配慮した環境対策エンジンとなっています。ボディーは振動・車両騒音を低減して乗り心地を向上しました。また、空調も改善され、快適性が向上。低床設計や車いすスペースを設けるなどバリアフリーの推進にも努めています。

今導入した新型車両は、耐用年数が20年以上と大幅に伸びた新型車両は1両およそ1億円。国・県・沿線自治体の補助金などを活用して今回3両を導入しました。

新車両の導入は、平成3年（1991年）以来16年ぶりです。モデルチェンジは開業以来初めて。今後も計画的に新型車両が導入される予定です。

「小さくても優しい力持ち」こんな表現がまさにぴったり。環境面に配慮しバリアフリーにも対応した新型車両です。これから地域の新しい顔として、みなさんに愛される鉄道を目指し、出発進行！

に駆け出しています。車両の愛称募集には、県内外から401点の応募があり、小林彩人さん（北九州市若松区）と岩川久美子さん（直方市）が名付けた「なののはな号」に決定しました。また、金田1直方駅間を往復する試乗会も行われ、参加者は間もなくデビューする真新しい車両の感触を一足早く満喫した様子。車両の愛称にふさわしく、菜の花が咲き乱れる沿線風景を眺めながら、春の訪れを楽しんでいます。